



# 清泉女子大学発展協力会 活動のご報告

2025年6月

会長挨拶

清泉女子大学発展協力会会長 百武 彰吾

平素より清泉女子大学発展協力会の活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

2025年4月、私たちは約50年ぶりに「学校法人清泉女学院」の一員として再びともに歩みを進めることとなりました。これにより、清泉小学校から清泉女学院中学高等学校、清泉インターナショナル学園、長野清泉女学院中学・高等学校、清泉大学・清泉大学短期大学部、そして本学に至るまで、系列校全体での連携がより一層強化され、清泉スピリットのもと、質の高い教育と学びを提供する環境が整いました。

発展協力会としても、この新たな節目を契機に、学生の成長と挑戦を支える支援をさらに推進してまいります。AIや国際化に対応した教育プログラム、ボランティアや実践的プロジェクトへの参加支援に加え、麗泉会の皆様と一緒に卒業生とのネットワークを活かした広報活動の強化も図ってまいります。

本年度より、皆様のご寄付がより身近になるよう、品川区と連携した「ふるさと納税制度」を導入いたしました。税制優遇を受けながら、清泉女子大学に継続的にご支援いただくことが可能になります。

創立100周年に向け、清泉の理念を次世代につなぐ礎を皆様とともに築いてまいりたいと存じます。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 2024年度 寄付金の使途

皆様からの温かいご支援により、2024年度は498件、516万1,502円のご寄付をいただきました。本紙面をお借りして心より御礼申し上げます。これらの寄付金は、次頁のとおり学生の活動支援等のために役立てさせていただきました。①では、TOEFL ITP・iBT、DELE、IELTS for UKVIの受験料の補助などを行いました。

②では、バンコクにおいて工芸布を使ってキーホルダーを作成するワークショップの開催とチャリティバザーを行う活動や、オーケストラに参加しフィリピンとカンボジアの子供たちに音楽や楽器の楽しさを伝えるための活動ほか、意欲的に異文化交流の活動を行った6名の学生に支援を行いました。③では、3年次生の成績優秀者に対して、3万円ずつ奨学金を授与しました。④では、オープンキャンパスの運営補助や留学生支援などを行うキャンパスキャストに対して、謝礼の図書カードを配布しました。⑤では、学生の学修状況や相談内容を一元管理し、履修指導等に活用する学生支援システムの導入費用の一部に充当させていただきました。

(次頁に続く)



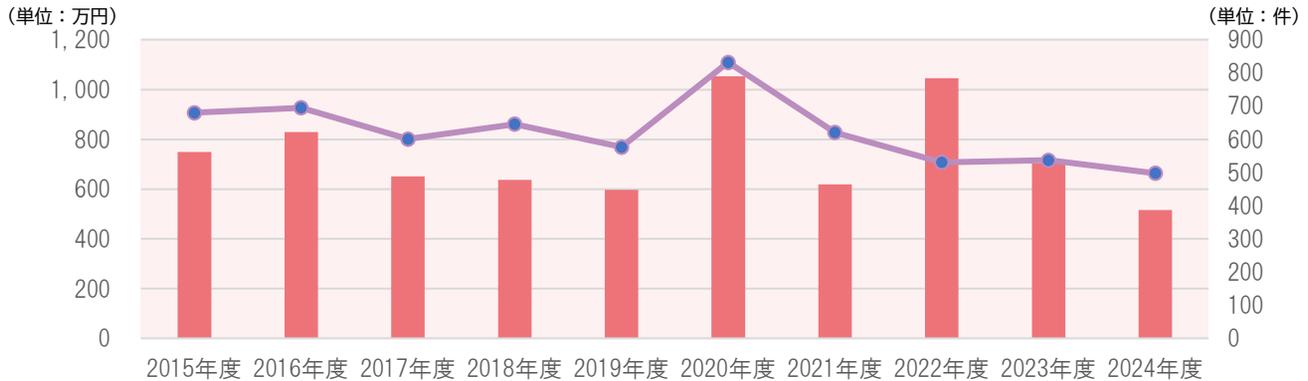
## 2024年度 寄付金の使途

①グローバル人材育成支援プログラム（76名）	928,400円
②チャレンジ支援奨学金（6名）	546,200円
③発展協力会学業奨励奨学金（10名）	300,000円
④キャンパスキャスト等への支援	980,000円
⑤学修ポートフォリオの導入	2,100,000円
⑥教育の充実、課外活動支援、社会貢献活動支援等のための活動	0円
⑦国際交流基金への組入れ	306,902円

## 2024年度 寄付金明細表（2024年4月1日～2025年3月31日）

個人会員								法人会員		計	
(1)本学に在籍した者		(2)本学に在籍した者の父母及び家族		(3)本学現旧教職員		(4)一般の有志		件数	金額	件数	金額
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額				
448	3,811,756	12	245,000	36	944,746	1	10,000	1	150,000	498	5,161,502

## 年度別寄付金額（棒線グラフ）と寄付件数（折れ線グラフ）



## 2025年度 寄付金の使途予定

寄付金の目標額を600万円に設定し、皆様からいただくご寄付については、下記の使途を予定しております。今年度は、従来から行っている様々な学生支援に加え、教育の充実、課外活動支援、社会貢献活動支援等のための活動や、新たに導入された学生支援システムの運用費用の一部としても使わせていただきます。

皆様からのご寄付は、学生支援や教育・研究活動の充実のための資金として、有効に活用させていただきます。何卒ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

## 2025年度 寄付金の使途予定

①グローバル人材育成支援プログラム	80万円
②チャレンジ支援奨学金（ボランティア活動も含む）	100万円
③発展協力会学業奨励奨学金	30万円
④キャンパスキャスト等への支援	105万円
⑤学生支援システムに対する支援	120万円
⑥教育の充実、課外活動支援、社会貢献活動支援等のための活動	65万円

## 地球市民学科3年 大隈 うたさん (チャレンジ支援奨学金)

### －奨学金の支給対象となった活動内容について教えてください。

NPO法人ワールドシップオーケストラにオーボエ奏者として参加し、春休みを利用してカンボジアとフィリピンへ渡航して、現地の子どもたちに音楽を届けてきました。

カンボジアでは日本人保育園や現地の小学校、日本カンボジア友好絆フェスティバルで演奏をしました。フィリピンでは学校での演奏に加え、アジア最貧困地区ともいわれるマニラトンド地区のジュニアオーケストラチームと共演し、音楽を通じて彼らと心を通い合わせることができました。コンサートの終演後には楽器体験を実施し、子どもたちに実際に楽器演奏を体験してもらいました。



カンボジアの小学校で演奏♪  
多くの子どもたちが熱心に演奏を聴いてくれました



オーボエを吹く大隈さん

### －活動を終え、今どのように感じていますか。

これまでも日本で吹奏楽やオーケストラに取り組んできましたが、演奏会に足を運んでくれるのは部員の家族や音楽に関心のある方がほとんどでした。演奏を良く評価してもらうことにばかりとらわれ、自分が音楽で誰かを元気づけているという実感がもてず、どこか自己満足に思えることもありました。そんな中、まだ音楽体験があまりない子どもたちに向けて演奏を届けられたことは、自分にとって大きな意味をもちました。演奏を聴いた子どもたちが目を輝かせながら楽器に触れ、「楽しかった」と笑顔で話してくれたことが印象に残っています。

また、生活環境の異なる子どもたちと音楽を通じて交流する中で、私自身も多くの力をもらいました。ぜひ、またこの国を訪れて、彼らと再会し、再び一緒に音楽を奏でたいと強く感じました。

### －この経験を今後どのように活かしていきたいですか。

今回の経験を通して、多様な価値観や生き方に触れることができ、自分の中の世界が大きく広がったと感じています。とくに、トンドの貧困地区で共演した子どもたちのたくましさは、強く私の心に残りました。これまでの自分の常識や、当たり前だと思っていたことが、ほかの場所では当たり前でないことを身にしみて感じ、物事を多角的にとらえる視点の大切さを学びました。今後は、どんな立場や背景を持つ人に対しても偏見を持たず、相手の立場に立って考える姿勢を大切にしていきたいです。

将来的にはこの経験を活かし、異なる価値観をつなぎ、人と人との橋渡しができるような役割を果たしていきたいと考えています。



### －チャレンジ支援奨学金を目指す後輩たちへ向けてメッセージやエールをお願いします。

迷いや不安があっても、まずは一步を踏み出してみてください。私自身、異国の地で演奏することに不安もありましたが、実際に子どもたちと音楽を通して心を通わせた時間は、何ものにも代えがたい宝物になりました。たとえ最初は自信がなかったとしても、真摯に向き合い、努力を重ねる中で見えてくるものが必ずあると思います。どうか自分の「やってみたい」を大切に、一步を踏み出してみてください。皆さんのチャレンジを応援しています。



マニラトンドの貧困地区。ここに暮らす子どもたちと一緒に演奏しました



楽器体験♪ 初めて音が出せたときの嬉しそうな表情が印象に残っています

## 英語英文学科4年 渋田 万由子さん（学業奨励奨学金）

### — どのような学生生活を送っていますか。

英語英文学科に所属し、現在はアメリカ文学を専攻して、斉藤悦子教授のもと勉学に励んでいます。また教職課程を履修し、英語及び宗教科の教員免許取得を目指し努力しています。秋には母校で教育実習を行う予定ですので、自身が4年間学んできたことを発揮できるよう、全力を尽くしたいと思います。

普段はラファエラ・マリアセンターSEOグループで様々なボランティア活動に従事しています。2年次でASEACCUに参加したことをきっかけに、コスメクレヨンの活動や英語ミサ、映画鑑賞会など様々な新しいことを企画しています。また大学近くにある品川区立日野学園での、朝の英語絵本読み聞かせボランティアにも参加しています。英語の面白さを小学生に伝える楽しさに、いつも胸を躍らせています。



清泉祭でのSEOグループの活動の様子（写真左端が渋田さん）

### — 課外活動ではどのようなことに取り組んでいますか。

以前よりご縁のあった東ティモールを支援する特定非営利活動法人NAROMANと協働し、東ティモールの若い親子に向けた絵本作成に取り組みました。東ティモールで大切にされているワニから着想を得て、雨水を大切にすることを育てたいというプロジェクトにかけける思いから、『ワニとカメ』の物語を作りました。現在は現地語であるテトウン語版、および英語版の作成に向けて取り組んでいます。

ボランティア活動以外では4年間続けている創作活動に取り組んでいます。SF小説を書くことが多く、1年次からいずみ文芸賞に応募し続けました。創造していることを言葉に起こすことはとても難しく、まだまだ未熟な点も多いですが、今後も邁進していきたいと考えています。

渋田さんが制作した絵本『ワニとカメ』



ガーデンパーティにて「いずみ文芸賞」（第二席）の賞状を授与される渋田さん

### — 奨学金をどのように活用したいと考えていますか。

発展協会からいただいた温かいご支援は、今後も自分自身の成長のために活用したいと考えています。今まで国内でのボランティア活動に多く参加してきましたが、今後は国際ボランティア活動にも取り組んでいきたいと考えています。そのためにも、たえず自身を研鑽し続け、より学びを深め、社会に役立つ人となるように頑張りたいと思っています。

### — 後輩たちへ向けてアドバイスやエールをお願いします。

今までの二十数年の短い人生の中で、大学生活が一番楽しかったと胸を張って言えるほど、清泉女子大学での生活はとても楽しかったです。友人、先輩や後輩、職員の皆さんたちとの交流は、かけがえのない宝物だと思っています。たとえ年齢を重ねても、きっと想い起すのは、鮮やかなツツジの庭で、本館を見上げたこの毎日です。在学生の皆さんにも、清泉女子大学で過ごす日々が、何ものにも代えがたい青春になることを祈っています。



JFCネットワーク勉強会の様子



「学業奨励奨学金」授与式の様子

